

歴史と海峡を活かしたまちづくり ～門司港レトロ～

1 社会資本の概要

門司港レトロ地区は、古くは源平合戦や宮本武蔵と佐々木小次郎の巖流島の決闘など、歴史上でも度々登場する関門海峡を挟んだ本州と九州の結節点に位置しています。門司港地区から和布刈地区にかけてのこの地域は、エキゾチックな面影を残す数多くの歴史的建造物、変化に富んだウォーターフロント、美しく雄大な自然景観など魅力ある資源を有しています。

現在、明治・大正・昭和初期の歴史的建造物を修復・活用して、官民が一体となって「まちづくりと観光地づくり」に取り組んでいます。また、門司港レトロ倶楽部などのまちづくり団体が、文化的な催し、食に関するイベント、イルミネーションやひなまつりなど季節ごとに様々なイベントを20年以上継続しています。



門司港レトロ地区



旧門司税関

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

かつては、日本三大国際貿易港に数えられた門司港も、港湾機能の移転や関門トンネルなど道路交通インフラの整備によって、通過都市となり、次第に都市機能が衰退していきました。そのような中、取り壊しの危機にあった旧門司三井倶楽部など歴史的建造物の保存運動を契機として、それらを活用した観光振興と地域活性化を図るため、官民一体となった「門司港レトロ事業」が立ち上げられました。平成7年には門司港レトロ倶楽部が6団体で設立されました。あえてNPO法人格を取得せず、加入や活動をしやすくしたことで、現在では参加団体が36団体までに増加しています。また、その活動は、団体・民間・行政が一体となって取り組んでおり、「まちあるき」などイベントの企画・実施のほか、市への地域活性化方策の提言、ご当地グルメ「門司港発祥焼きカレー」など新たな観光素材の発掘、観光キャンペーン、情報誌の発行、ホームページによる情報発信など幅広い事業に取り組んでいます。



旧門司三井倶楽部とまちあるき



関門海峡花火大会



福岡県 北九州市

門司港レトロ倶楽部／北九州市



3 活動の成果や波及効果等

門司港レトロ倶楽部を中心とした活動団体が、多様なイベントを企画・推進しており、小さなものまで入れると、今では年間600件以上の催しが行われています。平成6年に約25万人だった観光客が平成27年には約212万人に達するなど、北九州市を観光の街へとイメージ転換させ、レトロ地区は県内でも屈指の観光スポットに定着してきています。また、地域住民の意見を集約した行政への独自の提言が、反映・実現されることで、地域住民のまちづくりへの参加意識や、地域への関心も高まっています。



門司海峡フェスタ



門司港ビアフェスタ

4 前回受賞時からの活動の発展内容

「三宜楼」や「旧大連航路上屋」等の歴史的建造物の新たな活用策をはじめ、県境を越えたまちづくり団体との連携や、「まちあるき」による商店街等の周辺地域への回遊性向上、食のイベントの充実・協力など、新たな観光客層の掘り起こしを図り、来訪者の増加につなげています。

喜びの声



受賞者

門司港レトロ倶楽部
会長 高橋 泰雄

コメント

この受賞はこれまで門司港の観光まちづくりに関わってこられた全ての方々による功績です。これからも地域一帯となって門司港レトロを更に発展させるべく尽力致します。

活動内容

歴史的建造物の保存・活用、まちづくり提言、観光イベント開催、観光PR など

活動の経緯

平成 7年 会の発足
平成17年 北九州市表彰「まちづくり功労賞」受賞
平成27年 20周年記念事業「門司港『揺らぎ』の芸術祭」開催

手づくり郷土賞

グランプリ2016

講評

大賞部門

一般部門

資料集

所在地

福岡県北九州市門司区（西海岸、港町、東港町、清滝、和布刈ほか）

活動主体及び連絡先

門司港レトロ倶楽部（093-332-0106）※功労者名：佐久間 進、吉崎 修司

対象となる社会資本

門司港レトロ地区の歴史的建造物と関門海峡に面したウォーターフロント
※管理者：北九州市

